

【面接官の印象】

1. 外国人面接官の印象

癖のない聞き取りやすい英語と、親しみやすい雰囲気的女性。話す内容を大変熱心に聞いてくださいましたが、時々厳しい表情が見られました。

2. 通訳ガイド

終始笑顔で優しい印象でした。テキパキした動作で、面接をリードしてくださいました。通訳試験の日本語はかなりゆっくり読み上げてくれました。プレゼンの時は、相槌を打ちながら聞いてくれましたが、恐らく具体的な数字をちょっと間違えたためだと思いましたが、一瞬相槌が止まりました。

3. 通訳試験について

《出題された日本語》

「伝統的な日本旅館は日本人にとって温泉に入るだけでなく、季節ごとの地元のお料理を楽しんだりできる場所です。」のような内容で、もう少し長かったと思います。

《自分の解答》

Traditional Japanese inns provide people good hot springs. They also give the experience to enjoy seasonal local specialties.

4. 2分間プレゼンテーションについて

《出題されたトピック》

- ① 終活
- ② 打ち水
- ③ 食品サンプル

《選択したトピック》

『 終活 』

《発表した内容》

何とか話せそうな内容が2つあることが想定外（③もどうにか話せそうだった）だったため、選ぶのに時間がかかってしまいました。30秒の準備時間を有効にせず、2～3語メモを取ったのみで発表時間が来てしまいました。また、プレゼンの直前にTGより自分で選んだテーマを英語で言うように指示され、だったら③を選べば良かったと後悔しました。

話した内容は、大体、「第二次世界大戦後から日本人の平均寿命が延び（男女の具体的平均寿命を挿入）たが、健康でいる人ばかりではなく、認知症になったり、意識のない状態で病院にいる人もいます。健康なうちに死ぬための準備をし、家族に自分の意思を伝え

ておくことが大切と思っている人も多い。例えば、誰をお葬式によぶか…」の辺りで、時間切れとなりました。

5. 質疑応答について

NS	日本人はどんな人をお葬式に呼ぶの？
I	家族とか親戚、親しい友人など
NS	会社の同僚は呼ばないの？
I	人による。60歳とか70歳で死んだら会社の同僚は来てくれると思うけど、90歳で死んだら、みんな先に死んじゃってる。 (質問に答えてる私は必至だったのですが、NSとTGに大爆笑されてしまいました…)

6. 試験を終えての感想

通訳とプレゼンの他に、プリントを渡されました。これがいわゆる今年度から始まったおもてなしの精神を試すものだと思いますが、おもてなし精神を表すのに何が正解かわかりませんでした。

(プリント1) 団体客にコース料理を提供するレストランで、コース以外のものを注文したいとお客様に言われた。料理はツアー代金に含まれており、コース以外の料理は注文できない。

I: 丁重にお断り。理由としては、代金に料理も含まれているので、コース以外のものは頼めない、と説明。(プリントに書かれている内容をそのまま伝えた。ここで、何かやってみます、聞いてみます、的な態度を示す必要があるのであれば、得点は期待できない、と後で思った。)

(プリント2) 懐石料理のコースを提供する旅館に泊まる宿泊客から、料理の内容について質問を受ける。生魚は食べられないので変えてほしい、という要望。

I: 同じ食材で調理してもらおうようスタッフに頼んでみる、と回答。

NS: もし、調理してもらおうのに余分に支払わなければいけないなら、同行している母は外で食事したいと言っている。

I: まずは、スタッフに確認させて、と回答。

筆記試験の結果を見て慌てて2次試験の準備を始めたので、とにかく時間がなくコテコテでした。日本で当たり前のようにあること、行われていることを英語で説明する練習と、具体的な情報収集は一朝一夕ではできないことを痛感しました。ただ、2次試験の準備はとても良い勉強になったので、日本を伝えるための勉強を続けて行きたいと思っています。